

News Letter

VOL.1
2016年1月号

本学では平成27年4月1日に、「男女共同参画キャリア支援センター」を設置しました。

本学の学生・生徒及び教職員等が、性別にかかわらず組織の対等な構成員として、あらゆる活動に参画する機会が確保され、もって、自らの責任のもとにその個性と能力を十分に発揮し、かつ、学業・仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現することのできる組織を形成し、計画的に推進してまいります。

男女共同参画キャリア支援センター長 三宅 良彦 学長

平成27年度講演会

- 日程 平成27年12月12日(土)
- 講演会 午後1時30分～午後3時25分
教育棟3階302教室

●男女共同参画キャリア支援センターの活動

明石嘉浩 副センター長

各部会活動報告

女性医師・研究者支援部会 高田礼子 部会長

就職・再教育支援部会 仁木久照 部会長

保育・介護支援部会 高橋 恵 部会長

内野 彩 委員

勤務体制検討部会 田口芳雄 部会長

●東邦大学の取り組み

東邦大学男女共同参画推進センター長

片桐由起子(産科婦人科学講座准教授)先生

- 交流会 午後3時30分～午後4時30分
教育棟1階マリオン

講演会は85名の出席があり、医師、看護職、コメディカル、事務職など多くの職種の方々に参加していただきました。

三宅センター長の挨拶に始まり、明石副センター長からは、男女共同参画に関連する国の制度の歴史、本センター組織の説明、本学の職場マネジメントなどの課題の提示がありました。男女共同参画の実現には、「仕事」と「家庭・子育て」の両立(特に女性)ができる環境づくりが喫緊の課題であり、本学に見合った体制整備を行なうことがセンターの役割であること、ま

た、職場のマネジメントには管理職の果たす役割が大きく、問題点の共有に努め、支援を受ける側と支える側の評価を適切に行うことが重要である、と説明されました。

高田部会長からは、センターHPの紹介、次年度の活動として卒前教育、卒業生のデータ整備、研究者支援の具体策の検討などが挙げられました。

仁木部会長からは、他施設との比較から、特に復職支援プログラムの必要性が紹介されました。

高橋部会長からは、本学の出産・育児・介護休暇取得率、未就学児有子者数などが示され、育児・介護休業制度の理解と普及が重要であること、院内保育園の待機児童の問題、全職種が利用できる保育支援を検討していくこと、また、「仕事と介護の実態調査」の集計報告がありました。内野委員からは、医学生・看護学生、妊娠中および育児中の女性医師を対象に、ご自身が実施した「妊娠・出産・育児に関するアンケート調査」をもとに、現場の生の声を紹介されました。

田口部会長からは、本学の時短の特例措置の現状について、報告がありました。

東邦大学片桐先生からは、私立大学が新規事業に取り組むために必要なこととして、①ニーズありき、②執行部がうなずく、③皆が納得する、の3本柱が重要であり、男女共同参画には教職員のライフサイクルに応じた支援内容の構築が必要で、事業として継続・発展していくことが重要である、と説明いただきました。また、全学的かつ先進的な取り組みを具体的にご紹介いただきました。

なお、本会は「大学院FD」、「大学院特別講義」認定の講演会として実施されました。



〔東邦大学片桐先生〕

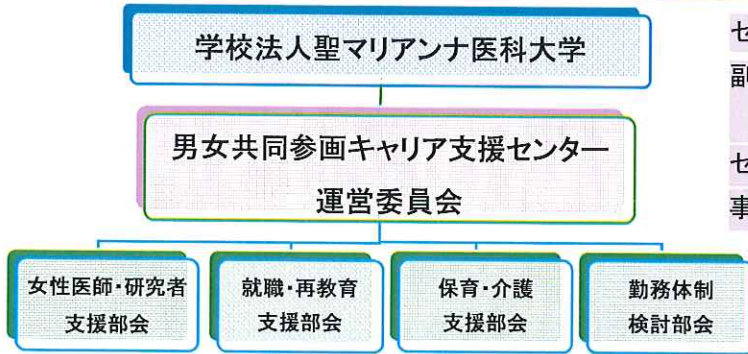


〔臨時託児所〕



〔講演会場〕

センターの体制



センター長	三宅良彦	学長
副センター長	伊野美幸	医学教育文化部門(医学教育研究)教授
	明石嘉浩	内科学(循環器内科)教授
センター顧問	青木治人	副理事長
事務局	人事課	

HP: <http://www.marianna-u.ac.jp/career/index.htm>

仕事と介護の実態調査

平成27年11月、教職員の皆様に「仕事と介護の実態調査」を実施しました。本学の学生、生徒、教職員5,948名へ配布し、4,308名から回答をいただきました(回収率72.4%)。集計結果については、男女共同参画キャリア支援センターHPに公表いたします。皆様から大変貴重な意見を多数いただき、ご協力ありがとうございました。今後、支援の充実、ワーク・ライフ・バランスの向上に繋がるよう、少しずつ体制を整備してまいります。



ロールモデル紹介

.....今回は、小児科N先生(卒後20年)の紹介です.....



★現在の状況★

(勤務)週5日勤務、月に1回当直、
(家族)自営業の夫、小学校1年生の娘
実家は夫も私も他県

★仕事と家庭の両立について工夫していること★

ある程度のタイムリミットを決め、時間がきたら比較的余裕のあるものは残して子供の迎えに行く。持って帰ることのできる仕事は持ち帰り、子供が寝てから行う。買い出しは週末に1週間分まとめて買い、毎日の帰宅時の買い物をしなくて済むようにしている。

★モチベーションが下がったときの対応★

子供のお迎えをいつもよりも早く行けるようにと心がけ、仕事を早く終わらせるようにする。子供の顔を見ると元気がもらえ、また頑張ろう!と思える。

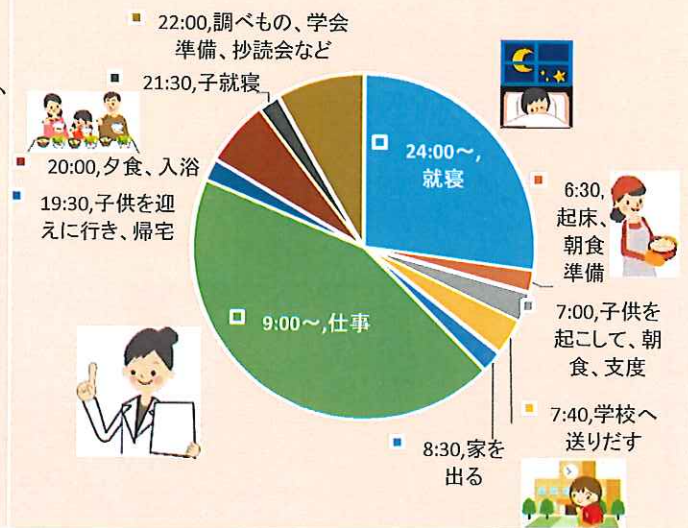
★先輩へメッセージ★

女子学生の占める割合が高くなっているため、今後いかに女性が仕事を続け、キャリアアップをしていくかが課題だと思います。個々に環境も違うし、育児、仕事に対する考え方も人それぞれです。働き方もみんなが同じというわけにもいかないかと思っています。自分がどうしたいのか、それに向けてどこまで許容してどこまで協力できるかを明確にすることが必要だと思います。私も子ども(夫も)笑顔で過ごせるように。

★将来の抱負など、今後の目標など★

現時点ではその日、その日で精一杯で、あまり先の見通しまで立てられない状況です。

小学校に入れば少しは楽になるかと思いましたが、先輩の先生方もおっしゃっていたとおり、小学生には小学生のまた違った悩みや時間を費やさなければならぬことができます。それは中学、高校に行っても同じなのかもしれません。子供と共に笑顔で過ごせるようにその時々でどのように働くのか考え、その都度選択していくことになるのかと思います。いたらない母親ですが子供と一緒に成長していけたらと思います。



●男女共同参画キャリア支援センター●

事務局044-977-8111(内線5840)、メール(ご相談・ご意見): career@marianna-u.ac.jp